

<p>1 学校教育目標</p> <p>校訓『敬天愛人』と『熊本の心』を基本理念に、豊かな人間性と社会を生き抜く力を育み、社会と共に進化し続ける人材の育成と活気に溢れた学校づくりを目指す。</p> <p>【方針】</p> <p>(1) 校訓 『敬天愛人』</p> <p>(2) 綱領四条目 「慎思力行」「剛健進取」「儉素礼讓」「自制協同」</p> <p>(3) 建学の精神 「其手足を低き地に働かし、心を高き天に置けよ」</p> <p>【教育スローガン】</p> <p>なすことによって学ぶ～夢を目標に、挑戦・努力・継続～</p>
--

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>【本校の重点】<“認め ほめ 励まし 伸ばす”教育行動指標を踏まえた教育の実現></p> <p><人権尊重の精神に立った学校づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○確かな学力の育成と個に応じた指導の充実 ○キャリア教育の推進と個性を活かす進路指導の充実 ○道徳教育の充実と命を大切に作る心の育成 ○指導方法等の工夫・改善（生徒にしっかりと寄り添い、一人一人を大切に教育） ○一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の徹底と切れ目ない支援体制の構築 ○いじめの未然防止と対応の充実 ○学校の安全教育及び安全管理の充実 ○家庭教育の充実と地域・学校協働活動の推進

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	業務改善と働き方改革	業務内容の精選と見直しを行い、長時間勤務を是正する	組織全体の情報の共有と連携を重視し建設的な意見から業務内容を改善と内容を具体的に掘り起して実践する	・部会や委員会等の小さな会議を活発化し、職員間のコミュニケーションを図る機会を増やす ・良好な関係性が円滑な業務に繋げる	B	部会や委員会等での積極的な活動と職員間のコミュニケーションの機会を働きかけているが、十分な成果を挙げていない。今後の課題として更なる取組みが必要である。
		全職員の働き方への意識改革と働きやすい職場環境をつくる	・長時間勤務の要因を明らかにし、慢性化している職員の勤務状況を改善する ・時間外勤務を前年度比で全職員平均10%削減する	・長時間勤務の多い職員と随時面談し、手立てと目標を明確化し、見通しと進捗状況を確認する ・慣例に囚われず効果的かつ効率的に取り組む ・長時間勤務対等者に対して産業医への受診を積極的に勧める	C	新型コロナウイルスが5類となり、学校行事の平常化と3年間の行事の中止・縮小等の影響もあり、職員の業務量は結果昨年よりも増えた。また、ITC化・DXの導入等により対応も増加した要因と考える。月1回の衛生員会を受けて、該当者への結果と受診・改善を進め改善しつつあるが、十分ではない。
	学校生活の充実と魅力発信	生徒の学校生活の充実度を向上と入学を志願する生徒を増やす	学校評価アンケートより生徒の学校生活の充実度を90%以上（満足度4をより上げる）、前期選抜の倍率を全学科2倍以上、後期選	・授業及び特別活動を充実させ、生徒が主体的に活躍する場を多く設ける ・成功体験から自己肯定感を向上させる ・研究指定校	A	本校に対しての満足度は94.3%を示し、特色ある活動が98.4%、地域や外部との連携した活動が91.9%出会った。また、前期選抜入試出願状況は昨年より0.41%上まり、2.74倍で

			<p>抜の倍率が全 学科1.20 倍以上を目指 す。</p>	<p>や生徒募集を 職員総力で取 組み、特色や 魅力等の情報 発信を積極的 に取り組む</p>		<p>あった。情報発 信もメディアを はじめ新聞・HP ・様々な場面で 発表活動・物販 等を行った。</p>
学力 向上	<p>新学習指 導要領に おける観 点別評価 及び学習 評価</p>	<p>新学習指 導要領に おける「指 導の一体 化」の検 証と見直 す</p>	<p>「指導と評 価の一体 化」の現 状を把握 し、学習 内容の充 実させる ため、新 学習指 導要領に おける観 点別評価 実践と検 証をする</p>	<p>・定期考 査で、新 学習指 導の観 点を明記 し、問題 作成に 取り組む ・「主体 的に学 習に取 り組む 態度」の 評価方 法について 各教科で 評価基準 を明確に し、生徒 と共有す る</p>	B	<p>定期考 査で、新 学習指 導要領の 評価の観 点を明記 した問題 作成は、 各教科・ 科目で実 施してい た。観 点別評価 の検証に 関しては、 今後実施 していく ことで、「 指導と評 価の一体 化」の実 現に向けて の余地は 残されて いる。</p>
キャ リア教 育(進 路指 導)	<p>計画的・ 系統的進 路指 導</p>	<p>学力の現 状分析と 希望実現 のため、 3年間を 見通した 進路指 導の計 画的実施</p>	<p>・基礎学 力の定 着状況 を把握し 、進路 意識を 高める ・進路 を選択 する模 試結果 を活用 し、学 習目標 を持た せる。</p>	<p>・外部イ ベント や校内 実施の 講話等 を利用 し、社 会状況 を理解 し、進 路意識 を高め る</p>	B	<p>1, 2年 生は学 期ごと 、3年 生は1 月期に 基礎力 診断テ ストを 実施し 、基礎 学力の 定着度 をはか り、面 談等に 活かして いる。</p>
	<p>キャ リア教 育の充 実</p>	<p>適性を 理解し 、必要 な力を つける</p>	<p>・自己 評価・ 自己分 析を行 うこと を適 性を理 解する ・職業 につ いての 知識を つける</p>	<p>・キャ リアパ ートで 記録を 蓄積し 、自ら の自己 評価を 行う ・外部 機関等 を利用 し職業 知識を 得る ・キャ リアサ ポート による 面談の 実施</p>	B	<p>ライフ プラン ニング 授業、 進路ガ イダンス 等を行い 、自ら の適性 と必要 とされる 力を理 解する ための 機会を つくって いる。ま た、キャ リアサ ポート 面接など で生徒 個人へ の助言 も行った。</p>
生徒 指導	<p>基本的 生活 習慣の 確立 交通 安全 の推 進</p>	<p>生徒が 心身の 安定を 図ること で、遅 刻や欠 席を登 校でき る。T POに 応じた 挨拶や 礼儀、 整容が 身に付 いている</p>	<p>・遅刻 や欠席 数につ いて、 生徒の 個人点 を少な く減ら す</p> <p>・挨拶 や礼儀 、整容 につ いて定 点調査 を実施 し、8 割以上 の生徒 がT POに 応じた 挨拶 や礼儀 が身に 付き、</p>	<p>・職員 は年間 とおし て登校 指導を 実施し 、遅刻 や欠席 の気持 を丁寧 に指導 し、安 心して 登校し よう と声を かけ ・遅刻 や欠席 のある 生徒は 背景を 含めて 組織的 に多 方面か ら支援 する ・適 宜、あ るよう に挨拶 や礼儀 、整容 の指導 を職員 と生徒 が対話 的にコ ミュニ ケーション を図る こと により 生徒</p>	B	<p>年間 とおし て地域 や玄 関など で登校 指導を 実施し た。遅 刻した 生徒に 対して 、ただ 指導す るだけ ではなく 、体調 の心配 や励ま しなど の掛け 合いを 行った。 廊下等 では 挨拶を する生 徒が多 く、お 客様か ら挨拶 してく れとい う声か けられ た。コ ロナ禍 で感 染症 対策に よ り回数 が少な かった ためか 、整容 に 対して の意 識が薄 れてい る。昨 今の 校則の 見直し の流れ もあ り、整 容に 関して も校則 の見直 しも再 度必要 である。</p>

			整容を考 えて行 動でき る	が自 己の あり 機 を考 える につ く る 機 会 を つ く る		
		ルー ルや マナ ーを 守り 安全 に登 下校 がで きる	登下 校中 の交 通事 故発 生件 数の 3% (2 5件) 以内 とす る	・学 期初 めの 交 通安 全指 導を 実施 す る ・登 下校 時交 通安 全講 話を 実施 す る ・登 下校 時積 極的 に確 認し 、改 善の 必要 があ るこ とを 速に 実施 す る	B	交通 事故 の件 数は 7件 と目 標を 達成 した が未 報告 や感 染症 対策 のた めの 保護 者送 迎が 増え たこ とも 考え られ る。ま た、 登下 校中 の自 転車 のマ ナー につ いて 地域 より 3件 の御 意見 があ った。 警察 から は無 施錠 の連 絡は 他校 に比 べ少 ない 状況 であ る。
	生徒 会活 動の 充実	生徒 にと って 学 校行 事が 充実 した もの にな って いる	行実 実施 後の アン ケート にお いて 「充 実し た」 と答 えた 生徒 を80 %以 上と する	生徒 の声 を大 力に した 魅力 ある 行事 の積 極的 改善 を図 る	A	行事 は感 染症 流行 前よ うに 実施 でき た。年 末に 実施 した アン ケート では 、約 96% 以上 の生 徒が 「学 校が 楽し い」 と回 答し てお り、 充実 した 学校 生活 を送 って いる。
		各種 委員 会活 動が 活発 に活 動し てい る	すべ ての 各種 委員 会、 各部 活 動等 が活 動実 績を 記録 する	活動 実績 のな し組 織に 対し て、 ボラ ンテ ィア の幹 旋や 協力 性を 図る	B	感染 症が 収束 しボ ラン ティア や委 員会 活動 、農 業ク ラブ 活動 が活 性化 した 。生 徒は 多様 な場 面で 活躍 した。
人権 教育 の推 進	人権 問題 の正 しい 理解 とそ の合 理的 判断 力の 育成	偏見 等に とら われ ず、 互い を正 しく 理解 し合 い合 え、 信頼 関係 を築 くこ とが でき る	人権 教育 や人 権委 員会 の主 催取 組 み通 して 人権 課題 につ いて 学習 し、 自己 言 動を 身に つけ る	人権 LHR で人 権課 題に 対し ての 技能 的側 面学 習に 互 いを 認め 合 い合 え、 理 解し 、具 体的 に理 解す るよ うに する	B	生徒 の状 況に 合わ せた 人権 課題 を取 り上 げ、 考え る時 間を 設け た。互 いに 人権 を尊 重す るた めに どう すべ ばよ いか 考え 、意 見を 述べ るこ とが でき るよ うに した 。
	基本 的人 権尊 重の 実 践 力の 育成	集団 の一 員と して 、人 権が 尊重 され ること が心 安か らな いこ とを 取り 組め る	人権 教育 を通 して 主体 的 に考 え合 い合 え、 態度 を身 につ け、 学校 の尊 重 が保 たれ るよ うに する	人権 教育 を通 して 話し 合 い合 い合 え、 考え る機 会を 設け 互 いを 尊重 でき るよ うに する	B	お互 いを 認め 合う 集団 とな るた めに 何が 大切 かを 考え 、有 意義 な意 見を 提案 でき るが 、行 動力 に結 びつ ける 点で は、 来年 度へ の課 題が 残る 。
いじ め防 止等	未然 防止 への 取組 強化 早期 発見 による 取組	生徒 たち が安 心 ・安全 な学 校生 活を 送る こと がで きる 生徒 がい じめ られ ない 、い じめ なく てよ い環 境 であ る	・い じめ を受 けた 生徒 を1 % (県 平均) 以下 とす るが 、い じめ と疑 われ る事 案が 合 標に 囚わ れず 、積 極的 に認 知す る ・生 徒が いじ めを 受け た場	・HR 等を 活用 し、 月に 2回 以上 のい じめ 防止 に関 する 啓発 を依 頼す るよ うに する ・生 徒の 心の 安定 を図 るた め、 全職 員が 生徒 一人 一人 を尊 重し た言 動を	B	現在 のと ころ いじ めの 件数 は19 人と 目標 を下 回っ たが 、軽 度の いじ め であ って も積 極的 に認 知し てい るた め増 加し た。教 師は 、日 頃か ら学 校生 活全 般で いじ め防 止教 育が 実践 し、 いじ め防 止や 早期 対応 をし た。

		いじめが発生した場合、問題の解決が難しくなる前に早期発見できる	合、迅速に相談できる体制を構築する ・職員は、いじめを見逃さないよう常に生徒を観察し、未然防止、早期発見、早期対応する ・いじめと疑われる事案が発生した場合、いじめ問題対策委員会を積極的に開催し、いじめを認知する	・いじめに関する職員研修を実施する ・SCや生徒相談員等を中心とした校内の相談体制の充実を図る ・心のアンケートやスクールサイン等のいじめを相談できるツールを活用する ・職員は生徒の学校生活を広く観察して積極的に関わることによりいじめの発見につなげる ・いじめが疑われる事案のうち、深刻でないものであっても積極的に認知する	B	職員朝会でいじめ防止や対応について情報提供した。 SCや職員で校内の相談体制を充実させた。心のアンケートやスクールサイン等のいじめを相談できるツールを準備し、緊急時の情報収集や定期的ないじめの情報収集ができた。いじめがあったと訴えた生徒についてはすべていじめの認定をした。アンケートでは、いじめを誰かに相談したという生徒が12名中11名おり、相談することの大切さを理解していた。
	発見後の対応	いじめの解決に向けて迅速かつ組織的に対応できる	・いじめ対応マニュアルに沿って、迅速な対応 ・いじめ問題対策委員会を開催し、協議する ・対応後にマニュアルや委員会で決定した事項に沿って適切に行動できたかを検証する	・いじめを発見した場合、いじめ対応マニュアルに沿って、直ちに状況確認を行い、関係分掌と連携して対応する ・状況に応じたいじめ問題対策委員会を開催し、早期対応に向けた協議を行う	B	いじめが発生した場合は、担任や学年、学科を中心に迅速に対応し、いじめの解消に向けて取り組んだ。いじめの対応が苦手な職員に対して、各主任がサポートして対応した。いじめ問題対策委員会においては、対応している案件が多く、継続指導をしていく。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域と本校との連携強化	避難所実地訓練及び避難所訓練等の運営に係る具体的対策と実施状況と成果	大規模災害の発生を想定した避難所・学校運営ができる	学校運営協議会開催、避難所運営委員会開催、自治会と市・学校との合同防災訓練を実施する	B	今年度、本稿が担当であったが、農ク全国大会のため次年度開催となった。
	生徒の防災意識の高揚	防災教育による具体的方策の実施状況と成果	大規模災害の発生を想定し自主的・協働的な行動ができる	防災教育LHR+避難訓練実施(年3回)、防災意識を高める授業展開、防災便りの発行など啓発活動に取り組む	A	防災甲子園に農業土木科の研究を応募し、高校生の部で大賞を取ることが出来た。防災意識は高まっている。
特色ある取組	生徒が輝き活躍する教育活動の充実	各学科の専門学習に意欲的に取り組むことができる	・アグリマイスター顕彰制度等による積極的な評価 ・研究指定事業を活かした主体的深い学習	・アグリマイスター顕彰制度を通じて、生徒全員が知識や技術・技能への自信を深める ・授業で生徒が主体的な学習活動	B	アグリマイスター顕彰制度等を通して、目標に向かって挑戦し続けた学びを振り返ることによって自己肯定感が上がっている。熊本スーパーハイスクール(KHS

			<p>びつながら授業と適切な指導と評価</p> <p>・熊本スーパーハイスクール（KHS）構想リーディング型への取り組み</p>	<p>アンケートを分析し、授業改善及び評価の工夫につなげる</p> <p>・各学科・教科等でプロジェクト学習、課題研究を実施させる</p>		<p>）構想リーディング型への取り組みから、情報活用能力とICT機器活用能力を組み入れたスマート農業の実現化を目指している。課題として、指導と評価の一体化について検証をしながら来年度に繋げていきたい。</p>
<p>農業の魅力発信と地域貢献活動の推進</p>	<p>農業教育を通じた地域貢献活動と学校HP等によるPR活動に取り組むことができる</p>	<p>・全学科による開放講座の実施及び交流活動</p> <p>・学科の魅力ある学習や取り組みを積極的に学校HPで発信</p> <p>・情報発生力を意識した情報発信</p>	<p>・公開講座等を通して、参加者の方々に熊農の魅力を伝える</p> <p>・HP更新状況を学科主任で確認し、全学科で魅力発信に取り組むことを常に意識する</p> <p>・チラシ、学校HPを利用して学校生産物を広く地域に紹介する</p>	A	<p>新型コロナウイルスが5類となり、各学科において開放講座を開講し多くの家族連れに受講していただいた。学校の魅力ある取り組みもHPへの掲載をはじめ地域の様々なイベントや大会等に出場し、その活動に高い評価をいただいた。その他にも地域とコラボした商品開発や取り組み等にも積極的に取り組んでいる。</p>	